

中間圏・熱圏・電離圏(MTI)研究会会合

10月26日(土) 12:40~13:30@4階第3会議室(B会場)

話題提供:

1. 2019年12月26日の日食について(5分)
横山竜宏(京都大学 生存圏研究所)
2. SMILES-2衛星の宇宙研公募型小型衛星への提案について(5分)
齊藤昭則(京都大学)
3. MTIハンドブックの状況(3分)
富川喜弘(国立極地研究所)
4. 2019年9月に南極で発生した成層圏突然昇温(5分)
富川喜弘(国立極地研究所)

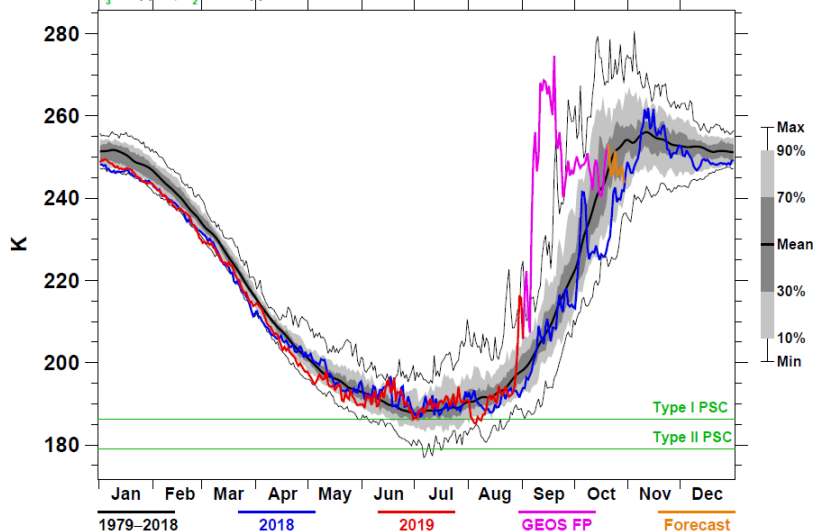
MTI Hand-Bookの状況

- MTI Hand-Bookは、大学院生・若手研究者が研究を行う際の一助となるような日本語資料を作成する目的で、中間圏・熱圏・電離圏(MTI)研究会で行われた口頭講演を第三者がレビューし、一般に公開している
http://mti.nict.go.jp/MTI_symposium/mti-handbook/top/
- 極地研レポジトリ上でDOIを付けて公開予定
- 近日中に執筆者に内容の更新や著作権の確認を年末くらいを締切として依頼予定
- 来年前半中に全レビューの公開が目標

2019年9月に南極で発生した成層圏突然昇温

90°S Mean Temperature
10 hPa MERRA2

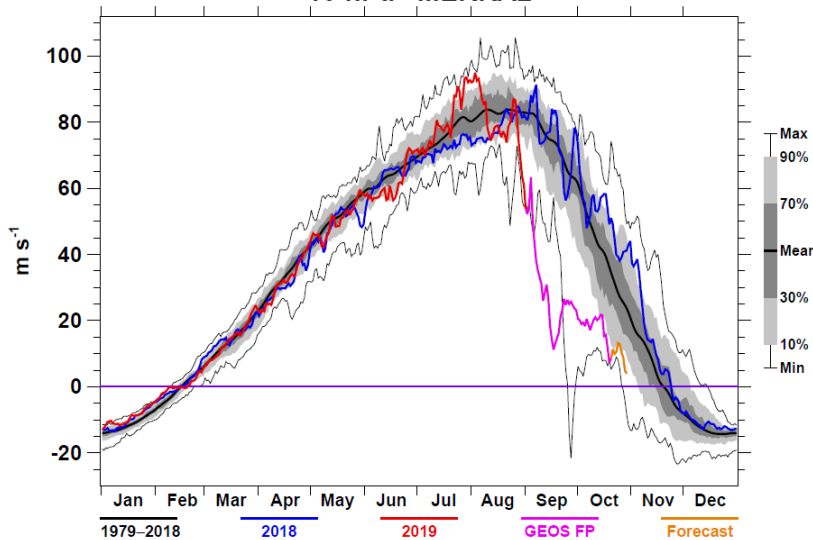
$\text{HNO}_3 = 6 \text{ ppbv}$, $\text{H}_2\text{O} = 4.5 \text{ ppmv}$



P. Newman (NASA), E. Nash (SSAI), S. Pawson (NASA)

2019-10-21T13:15:18Z

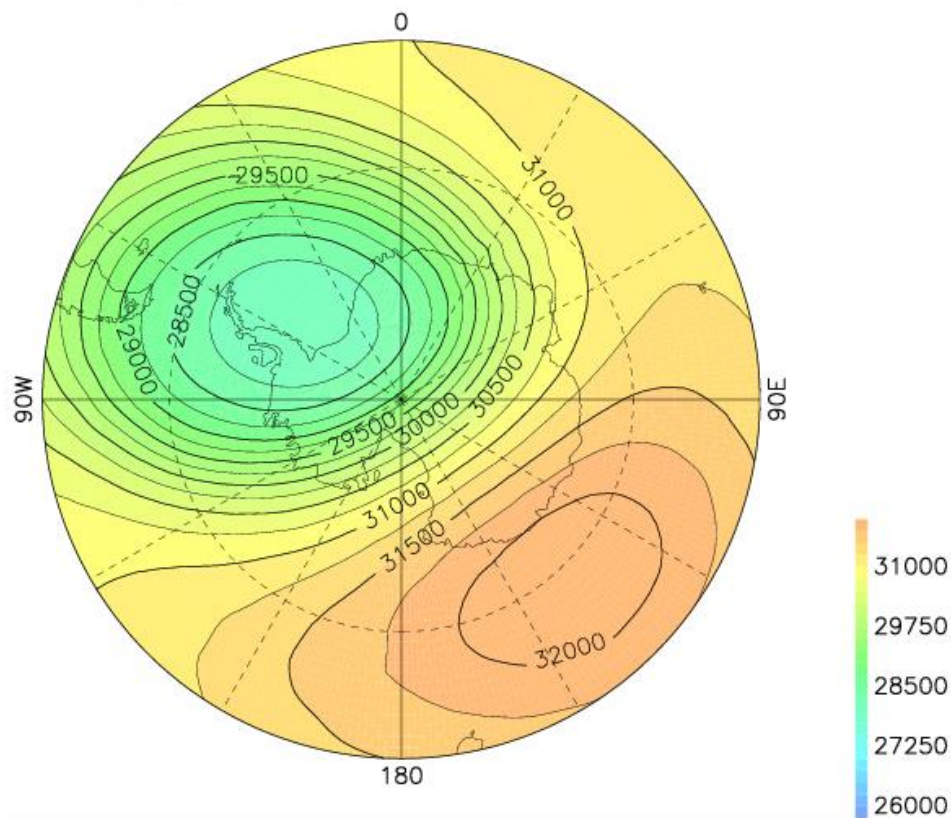
60°S Zonal Mean Zonal Wind
10 hPa MERRA2



P. Newman (NASA), E. Nash (SSAI), S. Pawson (NASA)

2019-10-21T13:16:39Z

GPH (m) at 10hPa on 00UTC 14 SEP 2019



2019年の南極突然昇温の特徴

- ・東西風 (@60S,10hPa) は逆転しなかったため、大昇温には至らず
- ・偏差で見ると、2002年の大昇温に匹敵か凌駕し、1988、2010年の小昇温よりずっと大きい
- ・2002年は波数2型 (vortex split) だが、2019年は波数1型 (vortex displacement)
- ・発生時期は2002年よりも1-2週間程度早い
(→大昇温に至らなかった要因?)

